



新国立劇場 2024/2025 シーズンオペラ

ワーグナー さまよえるオランダ人

Der fliegende Holländer / Richard Wagner

2025年1月19日(日)~ 2月1日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2024年11月9日(土) 10:00~ 前売開始

文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業



『さまよえるオランダ人』2012年公演より

ワーグナー楽劇の原点！呪われたオランダ人船長を救う永遠の愛

永遠に暗黒の海をさまよいつける呪われたオランダ人船長を乙女ゼンタの愛と自己犠牲が救う物語『さまよえるオランダ人』。大オーケストラによる有名な序曲、オランダ人のモノローグ、ゼンタのバラードなど、若きワーグナーの情熱みなぎる聴きどころも満載。音楽とドラマが密接に結びつき、幽霊船と若い恋人たちの物語が一気に展開するため、一瞬たりとも目が離せません。幽霊船の出現などのスペクタクル性も楽しめる舞台上で、ワーグナー入門にも絶好の作品です。

世界最高峰の“オランダ人歌い”ニキティン待望の再登場！

オランダ人役には世界最高峰の“オランダ人歌い”であり、2012年新国立劇場の『さまよえるオランダ人』でも強烈なカリスマ性とダークな魅力で観客を虜にした世界的スター、エフゲニー・ニキティンが再登場。指揮は大野芸術監督のラブコールが叶い、満を持して新国立劇場初登場となるマルク・アルブレヒト。ゼンタには同役を得意とするエリザベート・ストリッド、エリックにイギリスの成長株のヘルデンテノール、ジョナサン・ストートン、ダーラントにドイツで活躍する松位浩と強力な出演者が揃います。

<資料のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当:高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

ワーグナー楽劇の原点ここにあり！呪われた船長を救う永遠の愛



「オランダ人船長が神を罵った罪で永遠に海をさまよいつける」という幽霊船伝説をもとに書かれたワーグナー28歳のオペラ。永遠に暗黒の海をさまよいつける呪われたオランダ人船長を乙女ゼンタの愛と自己犠牲が救う物語で、この「愛による救済」はワーグナー生涯のテーマとなりました。ワーグナーが作風を確立し、のちの名作群への幕開けとなった傑作で、大オーケストラによる有名な序曲、オランダ人のモノローグ、ゼンタのバラードなど聴きどころも満載。音楽とドラマが密接に結びつき、幽霊船と若い恋人たちのドラマが一気に展開します。

マティアス・フォン・シュテークマン演出

は明快で分かりやすいと定評があり、オーソドックスながらも美しい色彩が印象的で、音のスペクタクルと共に幽霊船の出現など舞台ならではのスペクタクル性も楽しめます。

ワーグナーのオペラは難解ではないかと躊躇される方も、『さまよえるオランダ人』は絶好の入門編。ワーグナーの管弦楽曲がお好きな方にも、さらなるワーグナーの魔力に触れる格好の機会です。



世界最高峰の“オランダ人歌い”ニキティン待望の再登場！指折りのオペラ指揮者アルブレヒトのもと強力な布陣が集う



指揮は満を持して新国立劇場初登場となるマルク・アルブレヒト。日本のオーケストラへの客演も多いアルブレヒトは、世界の歌劇場で活躍しており、特にオランダ国立オペラでの数々の世界的話題作で知られています。『さまよえるオランダ人』での新国立劇場デビューは、特にワーグナー、R.シュトラウスなど後期ロマン派で名高いアルブレヒトの本領発揮の機会となります。

タイトルロールのオランダ人は、世界最高峰の“オランダ人歌い”であり、2012年新国立劇場の

『さまよえるオランダ人』でも強烈なカリスマ性とダークな魅力で観客を虜にしたエフゲニー・ニキティン。世界中で活躍するニキティンは、新国立劇場へは13年ぶり、待望の再登場となります。

乙女ゼンタにはワーグナー歌いとして

高く評価される強靱な声の持ち主エリザベート・ストリッドが初登場。エリックにイギリス出身の成長株のヘルデンテノール、ジョナサン・ストーン、ダーラントに世界で活躍する松位浩が嬉しい登場となります。

さらに国内からも、舵手役にユーゲント・ヘルデンテノールの旗手として躍進中の伊藤達人、マリーにパイロイト音楽祭出演経験も持つ国内屈指のメゾ金子美香と、オペラファンには見逃せない歌手が揃いました。世界的に評価される新国立劇場合唱団の勇壮な響きも聴衆の心を捉えること間違いありません。



左上よりM.アルブレヒト、M.v.シュテークマン、松位浩、E.ストリッド、J.ストーン、金子美香、伊藤達人、E.ニキティン

<「さまよえるオランダ人」あらすじ>

悪魔の呪いを受けて永遠に海をさまようオランダ人船長。7年に1度だけ上陸が許され、永遠の愛を捧げる乙女に出会った時、呪いから解かれる運命にあった。彼はノルウェー船長のダーラントと出会い、娘のゼンタに求婚する。宿命的な出会いを感じたゼンタは、永遠の貞節をオランダ人に誓う。ゼンタを愛するエリックは彼女の心変わりを責め、それを聞いたオランダ人は絶望し出航を命じる。ゼンタは彼を追って海中に身を投げ、彼女の永遠の愛によるオランダ人は呪いから救われる。





文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業により、『さまよえるオランダ人』に18歳以下180名様をご招待します。また、同伴される保護者等につきましては半額でS席をお買い求めいただけます(先着順・席数に上限あり)。この機会にぜひ、ご家族で、グループで、ワーグナー楽劇の原点『さまよえるオランダ人』をオペラの殿堂・新国立劇場オペラパレスでお楽しみください。

【対象公演日】2025年1月19日(日)14:00、22日(水)18:30、25日(土)14:00、2月1日(土)14:00 *ご招待人数:計180名様

【一次募集 受付期間】2024年11月9日(土)~11月17日(日)

【二次募集 受付期間】2024年11月30日(土)~12月15日(日)

※一次募集の申込み状況によって、二次募集を行わない場合があります。

詳細はこちら https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_028071.html

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】マルク・アルブレヒト

Marc ALBRECHT

ウィーンで学び、ウィーンとハンブルクでコレペティティヴを務めた後、マラー・ユージュント管弦楽団でアバドのアシスタントを務める。ザクセン州立歌劇場カペルマイスターを経て、95年ダルムシュタット歌劇場音楽総監督に就任。2006~11年ストラスブル・フィル芸術監督兼首席指揮者、11~20年オランダ国立オペラ及びネーデルラント・フィル首席指揮者。ベルリン・フィル、コンサートヘボウ管、ミュンヘン・フィル、サンタ・チェチーリア管、フランス国立管、クリーヴランド管、またベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、モネ劇場、パリ・オペラ座、パイロイト音楽祭などへ客演。オランダ国立オペラ在任中には、『魔笛』『フィデリオ』『マクベス』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』などのほか、トロヤーン『オレスト』世界初演を指揮。オーディ演出『グレの歌』の初舞台上演、オーディ演出『ワルキューレ』も国際的な評価を獲得、16年インターナショナル・オペラ・アワード最優秀オペラハウス賞、19年には同賞最優秀指揮者賞、21年OPUS ARTE年間指揮者賞を受賞。20年オランダ獅子勲章受章。24/25シーズンはベルリン・ドイツ・オペラ、ケルン歌劇場、オランダ国立オペラ、ジュネーヴ大劇場に登場。直近のオーケストラへの客演にはRAI交響楽団、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、オスロ・フィルハーモニー、グルベンキアン管弦楽団、チューリヒ・フィルハーモニーなどがある。新国立劇場初登場。



【演出】マティアス・フォン・シュテークマン

Matthias von STEGMANN

ミュンヘン生まれ。テレビや映画の翻訳、台本、演出家、俳優として活動を開始。1991年よりパイロイト音楽祭に参加、以来第一演出助手を務める。2002年英国ロイヤルオペラ『ヴォツェック』、04年「ニーベルングの指環」(共にK.ウオーナー演出)でも演出補として参加するなど、多くの演出家の信頼を得ている。03年メトロポリタン歌劇場『後宮からの逃走』では太守セリムで出演。自ら音楽劇の執筆、演出も手掛けている。新国立劇場では開場記念公演『ローエングリン』でW.ワーグナーの演出助手を務めて以来、『アラベツァ』『魔笛』『サロメ』『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』『ニーベルングの指環』に参加。07年『さまよえるオランダ人』、08年『魔弾の射手』を演出。また、04年こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』の台本・演出を担当、大絶賛を博しウィーン国立歌劇場特設劇場、チューリヒ歌劇場でも上演された。近年では12年ミンデンオペラ劇場『トリスタンとイゾルデ』、13年パイロイト音楽祭『リエンツィ』の演出を手掛けている。



【ダーラント】松位 浩(バス)**MATSUI Hiroshi**

大阪音楽大学・同大学院、ベルリン芸術大学に学ぶ。1996年にドイツ・ザールラント州立劇場ザールブリュッケンに首席バス歌手として招聘され終身雇用契約となり現在に至る。オランダ、ルクセンブルク、スイス、オーストリア、フランスの劇場でもオペラ歌手としてデビュー。ARTHAUSよりデシェヴォフ作曲オペラ『氷と鋼』、ヘンデル作曲オペラ『アグリッピーナ』をリリース。そのほか国内外の多くの公共放送局より多数のオペラ作品の放送あり。昨今は現代作曲家のオペラ作品の初演に出演することも増えてきている。2012年より大阪音楽大学客員教授も務める。新国立劇場では『さまよえるオランダ人』ダーラント、『魔笛』ザラストロ、『オテロ』ロドヴィーコ、『フィガロの結婚』バルトロ、『運命の力』ゲアルディアノー神父、『ラ・ボエーム』コッリーネに出演している。

**【ゼンタ】エリザベート・ストリッド(ソプラノ)****Elisabet STRID**

ワグナー、シュトラウスで高く評価されるスウェーデンのソプラノ。ストックホルム大学で学ぶ。ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、フランダース・オペラ、ラトヴィア国立オペラ、バイロイト音楽祭などで『タンホイザー』エリザベート、『ジークフリート』ブリュンヒルデ、『ルサルカ』タイトルロール、『スペードの女王』リーザなどに出演。最も多く演じている役は、『ワルキューレ』ジークリンデ(シカゴ・リリック・オペラ、テアトロ・レアル、ノルウェー国立オペラ、スウェーデン王立歌劇場、ポローニャ歌劇場など)、『さまよえるオランダ人』ゼンタ(ミシガン・オペラ、ライブツィヒ歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、シュトゥットガルト州立歌劇場など)である。『トリスタンとイゾルデ』イゾルデはマエストランサ劇場でデビュー以来、デンマーク王立歌劇場、ジュネーヴ大劇場で出演。最近では、ポリシヨイ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、イスラエル・オペラ、ポローニャ歌劇場などで『サロメ』、デンマーク王立歌劇場、フィンランド国立歌劇場などで『エレクトラ』クリソテミスに出演。20年には Opernwelt 誌年鑑で、イェーテボリ・オペラ『ワルキューレ』ジークリンデにより最優秀歌手に選出された。新国立劇場初登場。

**【エリック】ジョナサン・ストートン(テノール)****Jonathan STOUGHTON**

イギリスで最も注目のヘルデンテノール。『ナクソス島のアリアドネ』バッカスでデビュー、『ルサルカ』王子、『ジークフリート』タイトルロールで成功を収める。レパートリーはほかに『神々の黄昏』ジークフリート、『さまよえるオランダ人』エリック、『フィデリオ』フロレスタン、『ニュルンベルクのマイスター・ジנגー』ヴァルター・フォン・シュトルツィング、『カルメン』ドン・ホセ、『アイダ』ラダメスなど。最近の出演に、オペラ・ノース『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウ、プラハ国民劇場『ジョニーは演奏する』マックスなど。2020/21 シーズンからマンハイム国民劇場専属歌手となり、『影のない女』皇帝、『魔弾の射手』マックス、パルジファル、エリック、シュトルツィング、バッカスなどに出演。22 年同劇場の「ニーベルングの指環」新制作ではジークムント、ジークフリートに出演、同年の韓国ツアーではテノールの主要な役をすべて担った。23 年、アウグスブルク歌劇場『フィデリオ』フロレスタンに出演。同年バイロイト音楽祭の子供のための『パルジファル』タイトルロールに出演。23/24 シーズンはマンハイム国民劇場で『ボリス・ゴドゥノフ』ドミトリー、ベルン歌劇場『ジークフリート』タイトルロールにも出演した。新国立劇場初登場。

**【マリー】金子美香(メゾソプラノ)****KANEKO Mika**

東京音楽大学声楽演奏家コースを首席で卒業、同大学院声楽専攻修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院マスタークラス修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第 18 回奏楽堂日本歌曲コンクール第 3 位入賞。第 15 回日仏声楽コンクール第 2 位及び日本歌曲賞受賞。2008 年二期会『ワルキューレ』グリムゲルデでデビュー。10 年東京二期会『オテロ』エミーリア、同『魔笛』侍女Ⅲのほか、東京・春・音楽祭には 14 年『ラインの黄金』フロスヒルデ、15 年『ワルキューレ』シュヴェルトライテ、17 年『神々の黄昏』フロスヒルデ／第一のノルンで出演。18 年にはバイロイト音楽祭『ワルキューレ』グリムゲルデに出演という快挙を成し遂げた。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『カルメン』メルセデス、『さまよえるオランダ人』マリー(歌唱のみ)、『ジュリオ・チェザレ』セスト、『ボリス・ゴドゥノフ』乳母に出演している。オペラのほか、オーケストラコンサートや、日本歌曲のリサイタルでも高い評価を得ている。平成 24 年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。二期会会員。

**【オランダ人】エフゲニー・ニキティン(バス・バリトン)****Evgeny NIKITIN**

ロシア北部ムルマンスク出身。ヘヴィーメタルバンドで活躍後オペラ歌手に転向。サンクトペテルブルク音楽院に入りマリンスキー劇場とソリストとして契約、欧米の主要劇場や音楽祭に招かれるようになる。最近の主な出演にパリ・オペラ座『ホヴァンシチナ』シャクロヴィートウイ、メロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル、カナディアン・オペラ・カンパニー、ライブツィヒ歌劇場、新国立劇場『さまよえるオランダ人』、メロポリタン歌劇場『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、ソフィア王妃芸術宮殿『パルジファル』アムフォルタス、チューリヒ歌劇場、オランダ国立オペラ『サロメ』ヨハナーン、ウィーン国立歌劇場『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『ローエングリン』テルラムント、バーデン・バーデン音楽祭『トスカ』スカルピア、『ドン・カルロ』フィリップ二世、ザルツブルク音楽祭『イオランタ』イブ・ハキアなど。マリンスキー劇場へはボリス・ゴドゥノフ、フィリップ二世、オランダ人、アムフォルタス、ヴォータン／さすらい人、ドン・ジョヴァンニなどの得意役で出演を重ねている。新国立劇場へは 2012 年『さまよえるオランダ人』以来の登場となる。



新国立劇場 2024/2025 シーズン オペラ

リヒャルト・ワーグナー

さまよえるオランダ人

全3幕〈ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付〉

Der fliegende Holländer / Richard Wagner

【公演日程】 2025年1月19日(日)14:00/22日(水)18:30/25日(土)14:00/29日(水)14:00/2月1日(土)14:00

【会場】 新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:26,400円・A:22,000円・B:15,400円・C:9,900円・D:6,600円・Z:1,650円

【前売開始】 2024年11月9日(土) 10:00~

※予定上演時間 約2時間50分(休憩含む)

指揮	マルク・アルブレヒト	ダーラント	松位 浩
Conductor	Marc ALBRECHT	Daland	MATSUI Hiroshi
演出	マティアス・フォン・シュテークマン	ゼンタ	エリザベート・ストリッド
Production	Matthias von STEGMANN	Senta	Elisabet STRID
美術	堀尾幸男	エリック	ジョナサン・ストートン
Set Design	HORIO Yukio	Erik	Jonathan STOUGHTON
衣裳	ひびのこづえ	マリー	金子美香
Costume Design	HIBINO Kodue	Mary	KANEKO Mika
照明	磯野 睦	舵手	伊藤達人
Lighting Design	ISONO Mutsumi	Steuermann	ITO Tatsundo
再演出	澤田康子	オランダ人	エフゲニー・ニキティン
Revival Director	SAWADA Yasuko	Holländer	Evgeny NIKITIN

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

協力	日本ワーグナー協会
Cooperation	Richard-Wagner-Gesellschaft Japan

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/derfliegehollander/>【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】



【13】



【14】



【15】

新国立劇場『さまよえるオランダ人』2012年公演より 撮影：三枝近志